

(様式1)

# 動物実験計画書(新規・変更)

年 月 日

宮崎大学長 殿

動物実験責任者  
所属(学部学科等)

申請番号 \_\_\_\_\_

職名  
氏名

内線番号

1. 動物実験課題名(具体的に記入してください。)

2. 実験期間 開始予定 承認日 年 月 日、終了予定 年 月 日

3. 動物実験実施者(実験責任者、飼養者等を含む動物実験に関わる全ての者の所属、職名、氏名を記入してください。)  
\*:計画書の実質作成者(委員会から内容等の問い合わせができる方)に●をつけて下さい。

*	氏名	所属	職名等	教育訓練受講履歴

\*従事者決定後名簿提出 有

4. 動物実験の目的(実験の具体的手法ではなく、目的の概要がわかるように記入して下さい。)

5. 使用動物種	系統	微生物学的品質	上記実験期間中 使用予定頭数	導入元

使用動物数の算出根拠

遺伝子改変動物の導入 組換え動物の導入無し  
新規導入有り(国内譲渡・国際譲渡)  
既に導入済み  
改変遺伝子名:  
譲渡元:

6. 使用施設(飼育場所、実験場所にわけて記入。)  
飼養管理施設  
実験室

7. 倫理的基準に基づいた動物実験の分類(カテゴリー)  
A:生物個体を用いない実験、あるいは微生物を用いた実験。  
 B:脊椎動物を用い、動物に対してほとんどあるいはまったく不快感を与えないと思われる実験。  
 C:脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験。  
 D:脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み(長時間持続するもの)を伴うと思われる実験。

E:無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い またはそれ以上の痛みを与えると思われる実験。

8. 特殊実験区分

(詳細を 9-(1)欄に、具体的な安全対策を 9-(2)欄に記載)

1.  感染実験 安全度分類:  BSL1  BSL2  BSL3(接種微生物 )

2. 遺伝子組換え動物作成実験  接種実験 (区分:  P1A  P2A  P3A)

3.  放射性同位元素使用実験  放射線使用実験 (飼育場所: 使用核種: )

4.  発癌性物質投与実験  重金属投与実験  環境汚染物質投与実験  毒劇物等投与実験 (投与物質名: )

5.  細胞等の生体材料移植・接種実験

9-(1) 動物実験の方法(該当項目にチェックを入れ、その内容を書式に従って具体的に記入してください。)

【A】薬物等投与

薬物名 (必要に応じて 行を追加して下さい)	薬物のカテゴリー			投与部位					投与方法		
	発ガン 物質	毒劇 物	その他 (具体的に)	腹 腔	血 管	皮 下	脳 室	その他 (具体的に)	注 射	留置カテ ーテル	その他 (具体的に)

【B】細胞等生体材料移植・接種

使用生体材料		移植部位・方法		細胞株微生物汚染	細胞株の 遺伝子組換え
名称	由来	部位	方法		
				<input type="checkbox"/> 有り (汚染生物名: ) <input type="checkbox"/> 無し <input type="checkbox"/> 不明	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
				<input type="checkbox"/> 有り (汚染生物名: ) <input type="checkbox"/> 無し <input type="checkbox"/> 不明	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し
				<input type="checkbox"/> 有り (汚染生物名: ) <input type="checkbox"/> 無し <input type="checkbox"/> 不明	<input type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 無し

※ 移植細胞等に安全管理上または医療倫理上の問題がある場合は 13 欄に内容を記入して下さい。

【C】抗体作成: 抗原 [ ], 使用アジュバント [ ]

【D】感染実験: 感染微生物名: [ ]  
微生物の遺伝子組換え 有り、無し  
レシピエント動物の遺伝子組換え 有り、無し

【E】外科的処置: 処置法 [ ]

【F】ストレス負荷 a. 負荷方法 [ ]  
b. 負荷期間 [  時間・ 日間・ 月間・ 年間 ]

【G】遺伝子操作実験:  遺伝子操作動物作成実験  遺伝子操作動物接種実験

【H】材料採取: [ ]

【I】放射線照射

【J】その他: [ ]

(2) 実験方法を、処置を行う部位・内容・実験手順がわかるように具体的に記入してください。

10. 動物実験が必要な理由

(1) 動物を使用しない他の実験法(代替法)を採用しない理由。

(2) 本実験で使用する動物種を選択した理由。

11. 実験処置後、実験終了まで当該動物が生存する期間(処置ごとに記入してください。)

動物種/系統	処置方法	生存期間
		<input type="checkbox"/> 当該せず・ <input type="checkbox"/> 時間・日間・月間・年間
		<input type="checkbox"/> 当該せず・ <input type="checkbox"/> 時間・日間・月間・年間
		<input type="checkbox"/> 当該せず・ <input type="checkbox"/> 時間・日間・月間・年間
		<input type="checkbox"/> 当該せず・ <input type="checkbox"/> 時間・日間・月間・年間
		<input type="checkbox"/> 当該せず・ <input type="checkbox"/> 時間・日間・月間・年間

12. 動物が被る苦痛と苦痛軽減の方法

(1) 予想される苦痛の種類・程度を、実験操作時とそれ以降の実験期間(動物の生存期間)とに分けて具体的に記入してください。  
(必要があれば、それぞれに対する苦痛軽減の方法を記入してください)

- ・実験操作時に予想される苦痛
  
- ・操作後の生存期間に予想される苦痛

(2) 苦痛軽減の方法

A. 実験操作時、直後の苦痛軽減法

- 材料採取等のみの実験計画で、本項に該当しない。
- 摂食・歩行状態等の行動から大きな苦痛を感じていないと判断でき、特に処置を講ずる必要がない。
- 麻酔薬を投与する。[薬品名 投与量 投与経路 ]
- 鎮痛薬を投与する。[薬品名 投与量 投与経路 ]
- 抗生物質等 [薬品名 ]を投与し炎症を予防する。
- 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとるなどの人道的エンドポイントに考慮する (C 欄に記入)。
- その他 [ ]
- 苦痛はあるが、その軽減を行わない(C 欄に記入)。

B. 実験操作後、経過等を観察する必要がある場合、その期間中の苦痛軽減法

- 実験計画の内容が本項に該当しない。
- 摂食・歩行状態等の行動から大きな苦痛を感じていないと判断でき、特に処置を講ずる必要がない。
- 鎮痛薬を投与する。[薬品名 投与量 投与経路 ]
- 抗生物質等 [薬品名 ]を投与し炎症を予防する。
- 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとるなどの人道的エンドポイントに考慮する (C 欄に記入)。
- その他 [ ]
- 苦痛はあるが、その軽減を行わない (C 欄に記入)。

C. 苦痛軽減を行わない場合は、動物が受ける苦痛の大きさと実験の意義を具体的に記した上で、苦痛軽減を行わない理由を、人道的エンドポイントを設定した場合は、その具体的な内容を、それぞれ記載してください。

(3) 安楽死と死体処理の方法

A. 安楽死の方法

- 麻酔薬 [薬品名: ]の過剰投与
- 頸椎脱臼
- その他 [具体的に ]
- 安楽死させない。[理由: ]

B. 死体の保存と処理	
<input type="checkbox"/> 生物資源分野で冷凍保存し、同分野に焼却を依頼する。 <input type="checkbox"/> [ ]で冷凍保存し、外部業者に処理を依頼する。 <input type="checkbox"/> その他[ ]	
13. その他 必要または 参考事項	(飼養保管施設・実験室の承認状況に加えて、過去の動物実験計画書承認実績、学内の関連委員会(組換え等)への申請状況なども適宜記入。) <input type="checkbox"/> 項目 6 に記入した飼養保管施設は、宮崎大学長の承認を受けた施設である。 <input type="checkbox"/> 項目 6 に記入した実験室は、宮崎大学長の承認を受けた施設である。 <input type="checkbox"/> 遺伝子組換え実験安全委員会、 <input type="checkbox"/> 医の倫理委員会、 <input type="checkbox"/> その他( )に申請済み 承認番号( ) <input type="checkbox"/> その他特記事項 (具体的に記入)

承認を受けた実験内容を変更する場合、本書式に経過報告書を添えて変更申請を行って下さい。  
また変更前後の記述内容をまとめた書式(様式自由)を添付して下さい。

受領日

審査結果返答日